

— 平田 聡 — 京都大学野生動物研究センター 教授

チンパンジーとボノボの心を探る



チンパンジー

はじめてチンパンジーを間近に見たとき、とても不思議な感覚にとらわれた。姿形もふるまいも、なんとも人間に似ている。しかし、それはチンパンジーであって、人間ではない。私をじっと見つめるチンパンジーのその瞳の奥に、深い思考がある気がした。何を考えているのだろうか。

私は子どものころからチンパンジーの研究者を目指していたわけではない。もともとは、数学や物理に興味があった。数理の証明問題を解くのが好きだった。しかしやがて、ふと疑問に思った。物理現象は数式で表せるかもしれないが、数式を解いている自分の頭のなか中、あるいは人の心はそう簡単に数式で解くことができない。数式に表せない心の状態は、どうやって理解したらいいのだろうか。そんな疑問を抱いていたとき、ヒト以外の霊長類を研究する学問のことを知った。サルの仲間を研究することを通して、人間のことを知る。霊長類学に興味をひかれて、その道に進んだ。

社会的知性

なかでも特に、社会的知性、とよばれるテーマに焦点を当てた。社会的知性とは、仲間との暮らし、仲間とのかかわりあいの中で発揮される知性のことだ。

ボノボ

「社会的知性仮説」と呼ばれる仮説がある。ヒトの高度な知性は、社会的な場面で発揮される知性が原動力となって進化した。そう主張する仮説である。私の具体的な研究では、これまで、協力行動や、あざむき行動、社会的学習などをテーマにしてきた。

平成二五年、熊本サנקチュアリにボノボがやってきた。ボノボは、チンパンジーに姿かたちは似ているが、別の種の別の生き物である。両者は同じパン属（チンパンジー属）に属し、ヒト科の一員である。チンパンジーもボノボも、ヒトから見て最も近い関係にある動物だ。

熊本サנקチュアリにボノボが来る前の時点で日本にボノボはいなかった。熊本サנקチュアリで、国内初の飼育下ボノボ研究が始まった。チンパンジーとボノボは、社会性に大きな違いがある。概してチンパンジーが男性優位でかつ異なる集団同士で敵対的な社会を築くのに対し、ボノボは女性優位で平和的な社会を築く。その違いはどこから来るのだろうか。チンパンジーとボノボの違いを詳細に検討することで、人間の本性の進化的な基盤を理解することができると。チンパンジーやボノボを知ること、人間を知ることなのである。



Satoshi Hirata

●1973 年東京都生まれ。京都大学理学部卒業。京都大学霊長類研究所を経て 11 年、京都大学熊本サנקチュアリへ。専門は比較認知科学。